

【別紙 1-1】 2025年度・K E Sエコロジカルネットワークの取組み

希少植物の生息域外保全活動で栽培に取り組む植物

- *下記のA、B、C、D、G、Hの6種の中から希望する種を選択できます（複数可）。ただし、C、D、G、Hの4種については、セット数（苗数）に限りがあるため、各種につき1団体3セットまでとし、申し込み順に締め切ります。
- *2025年度の新規としては、E、オミナエシ、F、カワラナデシコ、I、クリンソウ、J、ノカンソウ、K、タムラソウ、L、ノハナショウブ、M、イワギボウシを扱いません。E、F、I、J、K、L、Mについても、2024年度までに栽培を始めたものであれば、2025年度での継続栽培も可です。
- *事業所内に緑化できる場所がある場合、適期にその場所に移植し栽培することも可とします。
- *社内・社外での啓発・広報に努めましょう。
- *植物の株は、すべて、京都市及びその周辺の産地に由来するものです。栽培セット（苗）の経費は、これらを含む京都ゆかりの希少植物の保全のための事業に活用しています。
- *各植物の「活用」の方法は、各団体と調整のうえお知らせします。野生復帰（かつての自生地への再導入）に活用させていただく場合もあります。
- *栽培指導協力：公益財団法人京都市都市緑化協会、一般財団法人葵プロジェクト

A フタバアオイ （ウマノスズクサ科 多年草）



1400年続く葵祭（賀茂祭）に欠かせない植物です。環境省・京都府のレッドリストに記載はありませんが、環境の変化で激減しています。日本固有種。

ハート形の葉が特徴で、双葉の間に、小さな赤い花が下向きに目立たないように咲きます。『源氏物語』にも登場します。一般財団法人葵プロジェクト（上賀茂神社内）などによって保全繁殖が図られています。

環境省／京都府レッドリスト：記載なし

◆**育て方**：木かげ、軒下などの半日陰。乾燥や強い日射を嫌います。明るい室内でも栽培可能。

◆**花期**：3月～5月

◆**活用**：希望する事業者は、上賀茂神社に株を返納（里帰り）していただく、「葵祭」で使われます。

◆**栽培セットの経費**：

3株＋容器等 5,500円

B フジバカマ （キク科 多年草）



『源氏物語』にも登場する秋の七草の一つで、水田の畔、河川敷など水辺に育つ植物です。自生地の減少により府内ではほとんど見られなくなりましたが、1998年に京都市で見つかりました。

一般に流通しているのはこれとは別種です。乾燥させた葉・茎は香料となり、古代の人々が身に着けました。海外との渡りをする蝶アサギマダラが蜜を好み訪花することでも知られます。各地の保全団体が栽培保全に取り組んでいます。

環境省レッドリスト：準絶滅危惧（NT）

京都府レッドリスト：絶滅寸前種

◆**育て方**：日当たりを好みます。夏場は水を十分にやります。風通しに注意します。

◆**花期**：（1年目）9月下旬～10月

◆**活用**：希望する事業者はイベント等での展示をしていただきます。

◆**栽培セットの経費**：

5株＋容器等 5,500円

C ヒオウギ (アヤメ科 多年草)



鮮やかな朱色の花が祇園祭に合わせるように咲き、厄除け・魔除けとして山鉾町などに飾られます。葉の形がヒノキの薄板を重ねた檜扇に似ていることが名の由来とされます。タネは漆黒で、「ぬばたま」「うばたま」の別名があります。府レッドリストでは準絶滅危惧種(2015)から絶滅寸前種(2022)に2ランクアップしました。

一般にはこれより背が低い変種(ダルマヒオウギ)の系統が流通しています。

環境省レッドリスト：記載なし

京都府レッドリスト：絶滅寸前種

◆**育て方**：日当たりを好みます。比較的乾燥にも強い。

◆**花期**：7月中旬～9月

◆**活用**：希望する事業者はイベント等での展示をしていただきます。

◆**栽培セットの経費**：

3芽(3株相当)+容器等 3,630円
*30セット限定です。

D キクタニギク (キク科 多年草)



京都の東山を流れる菊溪(菊谷川)の近くに、かつて自生していたことが和名の由来です(別名アワコガネギク)。江戸時代まで、川の周辺は全国から多くの著名な文人たちが訪れるキクの名所でした。現在は環境の変化で自生は確認できません。

明るい葉色で、晩秋に小さな明るい黄色の花を多数咲かせます。若い葉に芳香があります。

環境省レッドリスト：準絶滅危惧(NT)

京都府レッドリスト：絶滅危惧種

◆**育て方**：日当たりを好みます。風通しに注意します。

◆**花期**：11月～12月上旬

◆**活用**：希望する事業者はイベント等での展示をしていただきます。また、京都伝統文化の森推進協議会の「キクタニギクの咲く菊溪の森づくり」に育てた株を活用しています。

◆**栽培セットの経費**：

3株+容器等 4,070円
*20セット限定です。

G アヤメ (アヤメ科 多年草)



「いすれあやめかきつばた」と言われるほど美しい花を咲かせます。花が似るカキツバタ、ハナショウブは水生又は湿生なのに対し、アヤメは陸生です。また、花の黄と紫の文目の模様でも見分けられます。

よく知られた花ですが、近年シカの被害などで減り、府レッドリストでは準絶滅危惧種(2002)から絶滅危惧種(2015以降)に2ランクアップしました。

環境省レッドリスト：記載なし

京都府レッドリスト：絶滅危惧種

◆**育て方**：よく日の当たる風通しの良い場所で。鉢植えでも育てやすい植物ですが、根づまりしやすいため、1、2年に1回は植替えが必要です。

◆**花期**：5月

◆**活用**：希望する事業者はイベント等での展示をしていただきます。

◆**栽培セットの経費**：

3芽(3株相当)+容器等 3,520円
*30セット限定です。

H ワレモコウ (バラ科 多年草)



秋に紅紫色の小さな花を穂状につけます。平安時代からこの名があり、わびさびを感じさせる姿や色合いから、茶花、生け花としてもよく使われます。かつては根を天日乾燥させたものが吐血、下痢、やけどなどの治療に用いられたり、若い葉は食用にもなりました。

東アジア、シベリア、欧州に広く分布。京都周辺では、近年、自生地 of 丘陵などで見かけることが減っています。

環境省/京都府レッドリスト：記載なし

◆**育て方**：日当たりを好みます。水切れ、風通しに注意します。

◆**花期**：7月～10月

◆**活用**：希望する事業者はイベント等での展示をしていただきます。

◆**栽培セットの経費**：

2株+容器等 3,520円
*30セット限定です。